

和田義弥

ナス

一手間で秋まで収穫

桜前線の便りとともに、今年も本格的な菜園シーズンが始まります。トマト、ピーマン、キュウリ、エダマメなど、4～5月は種まき、植え付けをする野菜が目白押し。計画的に栽培をスタートさせましょう。

いずれの野菜も焦って早植えせず、気温が十分暖かくなってから始めるのがうまく育てるコツです。今回紹介するナスはその点、特に気を使ってください。

ナスはインドが原産地で奈良時代には既に日本で栽培されていたといわれます。初夢の縁起物にも例えられるように、日本人には古くからなじみがある野菜で、色や形や大きさなどの異なるいろいろな品種が全国で栽培されています。

ナスの成分は90%以上が水分です。昔はナスを絞って水を滴らせ、農作業中の喉の渇きを潤したともいわれます。秋になると皮が柔らかくなり、実がしまって味わいが増します。秋までしっかりと実をつけさせるためには、夏の管理が大切です。育て方ではそのポイントも紹介します。

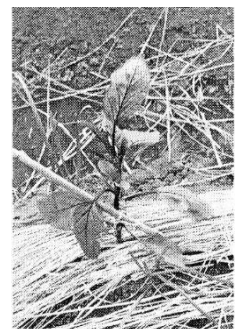


収穫適期は開花後15～20日。
早めの収穫を心がけよう

育て方

関東の平野部では4月下旬～5月上旬が植え付け適期です。上手な栽培の第一歩は健康的な苗を手に入れること。**茎が太く、節が詰まって葉が大きく色艶のいい苗を入手**してください。

畝は幅1尺、株間50～60センチが目安です。苗は一番花が咲きそうな頃に植え付け、風で倒れないよう仮支柱に誘引します。株元には乾燥防止にわらを敷いておくといいでしょう。(写真)



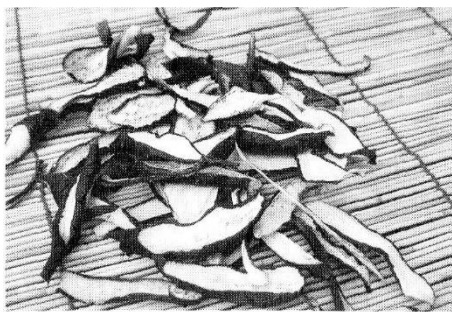
一番花が咲いたら、その下に出るわき芽を二つ残し、後のわき芽は小さいうちに摘み取ってください。残したわき芽を側枝として伸ばし、主茎との3本仕立てにして支柱に誘引します。

込み合わないよう伸び伸び育てるのがポイントです。次々と実をつけるナスはその分肥

料を必要とします。元気がなくなってきたら追肥をしましょう。

収穫の最盛期は8月上旬です。その時期を過ぎ、生育が一休みした頃に、葉を数枚残してすべての枝を3分の1から2分の1くらい切断してください。

併せて株元から30センチくらい離れた場所に一周ぐりとスコップを挿し込んで根の先端を切断し、追肥をします。これで株が若返り、8月下旬頃から再び勢いよく実をつけ始め、11月頃まで収穫が続きます。



薄く切って1日天日にさらすと乾燥して小さくなる

保存は干し野菜で

ナスをはじめトマトやキュウリ、ゴーヤーなどの果菜類は、それぞれ3～4株あると、新鮮なうちには食べきれないほど一時期に集中して収穫できます。そんなときは干し野菜にして保存しましょう。

薄く切って、1日天日にさらせばOKです。湿度の高い夏は完全に水分を飛ばすのは難しくても、グッとカサが減るので、冷蔵庫や冷凍庫にも保存しやすくなります。水分が減ってうまみも凝縮します。干し野菜は煮物や汁物の具にぴったりです。